

あとがき

編集顧問

糸満盛憲
越智隆弘
小野啓郎
竹光義治
富田勝郎
守屋秀繁
山室隆夫
矢部 裕

編集委員

荻野利彦
菊地臣一
黒坂昌弘
清水克時
高岸憲二
戸山芳昭
吉川秀樹

編集同人

井形高明
生田義和
井樋栄二
岩田 久
岩本幸英
大井利夫
小野村敏信
加藤博之
金田清志
腰野富久
紺野慎一
柿田喜三郎
酒匂 崇
桜井 実
澤村誠志
田辺剛造
田畑四郎
玉置哲也
中村耕三
馬場久敏
浜西千秋
廣谷速人
佛淵孝夫
三笠元彦
三浦隆行
持田譲治
山田治基
吉川靖三

例年と同様に大学病院の桜が満開となり、高校入試から解放された新入生や国家試験に合格した初期研修医らに混じって、整形外科を志す後期研修医が将来に胸をときめかせてわれわれの病棟にやってきました。

医療界一特に整形外科を取り巻く環境は大きく変化しており、「ばら色の将来」が彼らに来るのか、心配しています。本号の視座と誌上シンポジウムはそのことに関連しています。視座で永田見生先生は「整形外科は今までが高収入であると逆風の報道があり(中略)、日本整形外科学会および日本臨床整形外科医会が毅然とした態度で、整形外科医が世の中で果たしている重要な役割と、真摯な勤務状況からみると過小評価というべき報酬であることを国民に知らせるべきある(中略)。医師、整形外科医として正道が何かをしっかりと見極め、慎重に歩むべき道を選別することが重要な平成22年である」と述べておられます。

「整形外科の未来像—多様化したニーズへの対応」と題した誌上シンポジウムで菊地臣一先生は「整形外科は運動器に関してプライマリケアから専門医療まで一貫した診療体制を作り上げてきたが、診断・治療に対する考え方も、国民の医療に対する意識の変化に応じて劇的に変わってきている。『契約の医療』・『主観的な医療』・『患者の視点からの医療』・『費用対効果への配慮』などがこれから医療を行っていくうえで大切であり、それらに対応するためには整形外科医自身が変わる必要があり、『手術もできる運動器のプロ』として立ち向かっていく必要がある」と述べておられます。ここではわれわれが整形外科医として診療していくうえで重要なテーマである「整形外科スポーツ医学診療」、「運動器リハビリテーション」、「急性期医療に特化した整形外科単科専門病院」、「整形外科専門医」、「大学病院における整形外科教育」が、その分野の専門家により執筆されています。

「ロコモティブシンドローム」は日本整形外科学会の中村耕三理事長によって提唱され、最近よくテレビなどに取り上げられていることから、患者さんから「ロコモとは？」と尋ねられた経験のある読者も多いのではないのでしょうか。Lecture欄で石橋英明先生がロコモティブシンドロームの概念や「運動器不安定症」との相違などについてわかりやすく解説されています。正しく「目からうろこ」です。

掲載された論文などを読みますと、いつもながら本誌『臨床整形外科』はわれわれ整形外科医にとって毎号目を通したい雑誌の一つと感じます。

(高岸憲二)

臨床整形外科 (第45巻第5号)

2010年5月25日発行(毎月1回25日発行)

定価 2,520円(本体2,400円+税5%)

[2010年ぎめ予約購読料29,400円、
電子ジャーナル閲覧オプション付
38,300円(配送料弊社負担)]

E-mail rinseige@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinseige>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 編集室直通 (03)3817-5702(担当:石井・山崎)

販売部直通 (03)3817-5659・5660

ファクシミリ (03)3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 (株)アイワード 電話 (011)241-9341

広告申込所 (株)医薬広告社 電話 (03)3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 2010, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

・**JCOPY** (株)出版者著作権管理機構委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の承諾を得てください。